

賀川光夫先生の足跡



2000年秋 九重長者原にて（藤田晴一氏撮影）

賀川光夫先生を偲ぶ

史学研究会会長 後藤重巳

調査先の旅宿で、敬愛してやまなかった賀川光夫先生急逝の悲報に接したのは、昨年三月九日深夜のことであった。自宅からの知らせを受けた私は、当初の一瞬、悪質ないたずら電話ではないかと疑い、関係者にその事実を確認すると、タクシーに乗って先生の家に向かった。深夜の高速道路を走りつづける一時間余は、先生との四十年に亘る数々の思い出が、まさに走馬灯のように脳裏をよぎった。そしてその間、「待っているよ」と言われた数時間前の先生の声が、鮮明に聞こえつづけた。昼間の電話で、調査から帰り次第、お宅をお訪ねする約束がしてあったからである。春秋一巡して早くも一年目が来ようとしている。

先生の遺跡調査やその報告書・学術研究論文・著書など業績は、本書で全覽されるとおりであるが、これらには頭われない言動の数々も、先生の「還暦記念論集」や「古稀記念文集」に多々紹介され、また機会あるたびごとに知人や卒業生の間で語られてきたところである。しかしそれでもなお、先生の知られない一面は少なくない。

小冊子ではあるが、ここに、今では殆ど手にする事のできなくなった『爬竜のろ』がある。

これは先生最初の随筆集とも言えるもので、昭和三十三年秋、日本考古学協会からの派遣で、琉球諸島考古学調査の際の感傷を、四十ページ程の小冊子に仕立てたもの。奥付には三十四年三月十八日、発行者は別府大学同窓会となっており、いわゆる「同窓会叢書」の第一輯にあたる。冊子は冒頭の「琉球の思い出」のあと、琉球緋のグラビアがあり、「琉

球に思う」が続く。

南海の珊瑚の島よ

がちゅまるの樹々の茂みよ

石塀の丸太小屋よ

ミヤラピアシビの丘の麓に

姫百合はねむる

乙女らは何を考え 旅人は何を祈る

戦敗れて山河もとにかえる

黒汐はうずなして珊瑚にせまり

玉散る青き海よ

白き岩肌よ

ぶっそう華の真紅な丘から

姫百合が一輪

乙女らの心珊瑚の島を思い

旅人の心は果しなくむなし

時に先生三十五歳、「青春多感な年令」とは申せまいが、はじめての南島で得られた感傷を、先生なりに好く現されているものと思う。

この冊子には、「琉球の思い出」にはじまり、「首里城」「王陵」以下、十七編の短い随想が載せられている。それらのうちに「琉球政府博物館」があり、ここでは前後の感傷的な文から離れて、先生独特な主張が覗いている。ひとこと、その文の一部分を引用すると

(前略) どうも人間は自分に関することや、日常の平凡な生活など

は軽蔑して、よその物を大切にしてくせがある。(中略) 琉球にそ
だつた優れた民芸は数えあげるといくらでもある。紅型や、陶芸も
その代表であるが、南蛮、パナリと数えると限らない。そうした実
際に人々の生活が生んだものこそ、私は貴重な博物館資料だと考え
ている。

と述べられ、当館には琉球王朝関係の資料や南蛮焼の「一級品」が多く
展示されているが、パナリや背負い、上布などが見られない現状を歎き
ながらも、優れた琉球の民芸品の好き物を余計集め、見せようようとする
よりも、それを作る技術や道具を調査し、「優れた芸術をなくさない
工夫をすることが必要である」と主張されている。そして「民芸は見せ
るものではなくて用のためのもので、優れた作品は民族の誇りである。
そんな博物館であつてほしい」と結んで居られる。その後沖縄の博物館
資料収集活動は、先生が予見されたように進んでいる。

先生ご自身のその後の沖縄への思い入れは、この一ヶ月間の調査に拠
つていろいろらしいが、それにしても先生の記憶力のすばらしさには驚かさ
れる。この小著のなかにも地名・動植物など様々な「島言葉」を無数に、
しかも正確に使われているが、当時のこととガイドブックの類があつ
たとも思えない。恐らくはその記憶力に拠るしかあるまい。先生が邂逅
された当時の人びとに就いても然りであり、そこに楽しいいくつかの昔
語りが続くのがつねであつた。

先生が逝かれてはや一年。様々な思い出が交錯するなかで、その一端
を記して追悼の文とする。いやなるご冥福をお祈り申し上げたい。

台掌

平成十四年二月

消える日本の原郷　どんぐり山と棚田

豊かな腐葉土が支えた縄文の生活

賀川 光夫

別府湾の北を東西に走る鹿鳴越^{かなきこえ}の山並みは、カシヤクヌギの広葉樹林地帯（ドングリ山）で、山には落ち葉が積もり、水を吸収して栄養豊富な腐葉土が堆積^{たいせき}している。秋になると山はドングリ山になる。東日本ではブナやコナラ、クヌギにトチノキなどのドングリ山（落葉樹）、西日本ではカシ、シイなどのドングリ山（常緑樹）である。このドングリ山が潜在的植生として縄文文化を生んだ。

ドングリ山がつくりだす腐葉土は温かく豊かで人は様々な恵みをうけてきた。春になると腐葉土の懐でツクシ、ワラビ、ゼンマイ、カズラなどが芽をふく。

最近、富山県小矢部市桜町遺跡（縄文中期）からゼンマイに似たコゴミが、クリやクルミなどの堅果類とともに見つかった。コゴミはシダ植物のクサソテツであるが、アルカリ（灰汁など）によるアク抜きが必要がない食用植物で、山菜類として利用されていたようである。このように縄文時代から照葉樹林の恵みによって春の山菜採りが始まった。

腐葉土に蓄えられた栄養のある水は小川に注ぎ、大河に合流してやがて海に注ぐ。この水によって川には「ドジョッコだのフナッコだの」魚が育ち、海には大魚が育つ。ドングリ山の腐葉土が何故大量の魚類を育成させるか、このメカニズムも完全に分かっていない。しかし東北・三陸地方の漁民が内陸にブナの苗木を植えている姿はブナの林と漁業との関係を思わせる。貝塚等からみつかった漁労具、魚介類、民俗資料から

みた漁民の生活などからブナ林と漁労の関係が明らかにされつつある。夏は漁労の季節である。

秋になると東日本の山にはコナラ、西日本はカシ、シイのドングリの実がみのり、ドングリ拾いの季節になる。ドングリは貯蔵穴で保存され、乾燥して皮をむき、煮沸、水さらしによってアク抜きをすると、粒でも粉食でも食べられる。

ドングリの加工食は鹿兒島県志布志町東黒土田遺跡の貯蔵穴（縄文草創期）から発見されたのが最も古く、最近では宮崎県佐土原町周辺の連結炉穴から縄文早期初頭のドングリが出土している。ドングリを食糧にすることは縄文土器製作開始のころから行われていた。ドングリの煮沸加工のために縄文式土器が開発されたとする渡辺誠・名古屋大学教授の研究からも明らかである。

鳥獸のえさ場となるドングリ山は絶好の狩猟の場である。イノシシ、シカの生態を知り尽くした縄文人はキジ笛、シカ笛などの擬声を使用して狩りをした。長崎県対馬・佐賀貝塚（縄文後期）から発見されたシカ笛は狩猟の様子を明らかにしてくれた。狩りの季節は主に冬である。

ドングリ山の腐葉土は神の水を蓄え、森をはぐくみ、春の山菜、夏の漁獲、秋の収穫、冬の狩猟と四季を通して生活のサイクルをつくりだした。このサイクルは一部を除いて、堤が造られ、稲作が定着する七世紀ころまで続いたとみてよい。ドングリ山は「日本の原風景」である。

ドングリ山のみもとは腐葉土に蓄えられた水が伏流して湧出^{わっしゅつ}するところである。この湧水点にムラができたのはいつごろか分からぬが、北部九州ではおよそ三千年前の縄文後期末と思われる。唐津市菜畑遺跡（縄文晩期）の小水田は前に扇状地を控える小規模棚田のように見えた。一九六〇―六二年におこなわれた山ノ寺遺跡をはじめとする長崎・雲仙

岳すそ野に広がる縄文晩期遺跡群の調査は、稲作起源をテーマとしたもので、ドングリ山の腐葉土に蓄えられた水が湧出する地点に集中していた。この縄文晩期遺跡群から有明海まで、扇状原が開け、そこには各所に柵田がみられる。

島原市在住の古田正隆さんが七四年発掘した国見町筏遺跡から稲もみと小麦が見つかった。出土土器から、縄文後期後半で最古の稲・麦資料である。筏遺跡周辺にも良質の湧水がみられる。山には腐葉土がつもり、水を蓄え、原初農耕を芽生えさせた。柵田こそ日本の「農業の原風景」である。

大分県速見郡日出町山田のムラに「水口神社」がある。そこはドングリ山の湧水点で、ここから別府湾にいたるまで見事な柵田が広がる。日本の原風景と、農業の原風景が水口神社を境に同時に見られる。このまれにみる日本の原郷が日ごとに開発で失われていく姿をみると残念でたまらない。

〔付記〕

この文章は賀川光夫先生が『朝日新聞』夕刊（一九九九年三月十二日）の「文化欄」のために執筆されたものである。先生の学問の原点がうかがえる文章としてここに再録する。

賀川光夫先生の調査研究活動

- 一九四八年 六〜十一月
大分県佐伯市下城弥生式遺跡の調査一・二次 大分県教育庁
- 一九四九年 五月
大分県東国東郡国東町
安国寺弥生式遺跡の調査一〜五次 九州文化総合研究所
- 一九五二年 五月
九州文化総合研究所
- 一九五一年 六月
日本における古墳外部調査 日本考古学協会
- (梅原末治博士担当)
- 一九五二年 四月
福岡県大宰府遺跡調査(鏡山猛氏担当) 九州文化総合研究所
- 一九五二年 八月
大分県玖珠郡名草台遺跡担当 大分県教育庁
- 一九五二年 六月
大分県玖珠郡名草台遺跡担当 大分県教育庁
- 一九五二年 十月
大分県玖珠郡名草台遺跡担当 大分県教育庁
- 一九五三年 十月
大分県臼杵市小六洞穴調査担当 大分県教育庁
- (東京大学八幡一郎講師と共同担当)
- 一九五三年 六〜十一月
大分県早水台遺跡担当一〜二次 大分県教育庁
- (東京大学八幡一郎講師と共同担当)
- 一九五三年 十二月
福岡県糸島郡志登支石墓調査 大分県教育庁
- (鏡山猛氏担当)
- 文部省文化財保護委員会
- 一九五四年 四月
日本考古学協会第一三回大会にて
「大分県早水台遺跡について」発表 早稲田大学
- 一九五四年 四月
宇佐弥勒寺跡発掘団長(一九五八まで) 大分県教育庁
- 一九五四年 七月
大分県虚空蔵寺跡発掘担当 日本考古学協会
- 一九五四年 十月
大分県七ツ森古墳発掘担当 日本考古学協会
- 大分県竹田市
- 一九五四年 十月
日本考古学協会第一四回大会にて
「豊後七ツ森古墳調査」を発表 京都大学
- 一九五五年 四月
日本考古学協会弥生式文化調査特別委員会特別委員 日本考古学協会
- (一九五九まで)
- 一九五七年 六月
大分県佐伯市白瀉弥生遺跡調査担当 大分県教育庁
- 一九五七年 八月
沖縄学術調査団調査員 宗像神社
- 一九五八年 四月
日本における稲作農耕文化起源に関する研究 文部省科学研究
- 一九五八年 九月
琉球沖縄考古学調査担当 琉球政府

一九五九年 九月

宮崎県串間市下弓田遺跡発掘担当

宮崎県教育庁

一九五九年 十二月

熊本県宇土市曾畑遺跡発掘担当

慶応義塾大学

一九六〇年 四月

日本考古学協会西北九州調査

日本考古学協会

特別委員会特別委員

日本考古学協会

一九六〇年 四月

「九州縄文晩期二、三の問題」(特別研究)

日本考古学協会

会場早稲田大学文学部

日本考古学協会

一九六一年 四月

日本考古学協会第二七回大会

国学院大学

「長崎県山ノ寺遺跡調査」発表

国学院大学

一九六一年 八月

長崎県下の縄文晩期遺跡発掘調査担当

日本考古学協会

一九六一年 十月

宮崎県高千穂町陣内遺跡発掘担当

宮崎県教育庁

一九六二年

日本考古学協会洞穴遺跡調査

日本考古学協会

特別委員会特別委員

日本考古学協会

一九六二年 十二月

宮崎県宮崎市松添貝塚発掘団長

宮崎高校

一九六三年

石人石馬調査特別委員会特別委員

日本考古学協会

一九六四年 六月

大分県日出町早水台遺跡第三次発掘担当

大分県教育庁

一九六四年

日本人とアジア人の形質研究と先史文化の研究(一九七四まで)

長崎大学医学部

別府大学文学部

一九六四年 六月

長崎県長崎市深添遺跡第一次調査団長

長崎県教育庁・長崎大学

一九六四年 八月十月

大分・宮崎・長崎・鹿児島県下洞穴遺跡調査担当

日本考古学協会

一九六五年 四月

日本考古学協会生産技術特別委員会、農業・製鉄部会特別委員

日本考古学協会

一九六五年 四月

大分県大野郡緒方町大字大石遺跡調査団長

別府大学・東京大学

―農耕文化起源に関する合同研究―

東北大学・九州大学

同右に関し東北大学右田英一郎教授交付の「日本文化の起源」の一部研究として研究費一八〇万円交付、財団法人民主主義研究所

一九六五年

日仏合同学術調査委員(一九六六まで)

九州大学・パリ大学

一九六五年 六月

長崎県長崎市深掘遺跡調査第二次調査団長

長崎県教育庁・長崎大学

- 一九六五年 六月
大分市周辺新産都調査団長「野間古墳・小池原古墳・横尾貝塚」
大分県教育庁
- 一九六五年 八月
長崎県南松浦郡富江町（五島列島）宮下遺跡調査団長
長崎県教育庁・長崎大学
- 一九六五年 十一月
日本考古学協会開催（学会長） 会場 別府大学
日本考古学協会
- 一九六六年 三月
熊本県宇土市轟貝塚調査分担
慶応義塾大学
- 一九六六年 六月
長崎県西彼杵郡野母崎町（為石）など長崎半島学術調査団長
長崎県教育委員会
- 一九六六年 十月
日本考古学協会にて「シンポジウム縄文万機の農耕問題」
北上市・岩手大学
- 一九六七年 三月
大分市周辺新産都市調査団長「馬場・中ノ原古墳群・黒山遺跡」
大分県
- 一九六七年 三月
佐賀県天山遺跡調査
文部省（科学研究）
- 一九六七年 四月
文部省科学研究費総合研究「日本における縄文時代農耕に関する合同調査」一一〇万円交付決定
文部省
- 一九六八年 十月
大分県直入郡荻町桜山遺跡調査
文部省（科学研究）
- 一九六九年 十二月
福岡県筑紫郡筑紫町常松遺跡団長
西日本鉄道
- 一九七〇年 十月
福岡県筑紫郡筑紫町永岡遺跡調査団長
福岡県教育庁
- 一九七〇年 十一月
宇佐市台ノ原遺跡調査団長
大分県教育庁
- 一九七一年 三月
宇佐市法鏡寺跡（白鳳）発掘調査
大分県教育庁
- 一九七一年 四月
文部省科学研究費「縄文時代農耕文化研究」
文部省（科学研究）
- 一九七一年 六月
宇佐市史刊行会監修者（委員代表）
宇佐市史刊行会
- 一九七一年 七月
長崎県西彼杵郡野母崎町脇岬遺跡調査団長
長崎大学
- 一九七一年 十月
大分県直入郡横迫遺跡調査
文部省（科学研究）
- 一九七一年 十一月
宇佐市虚空蔵寺跡調査団長
大分県

一九七一年 十二月

埋蔵文化財委員会委員

日本考古学協会

一九七二年 四月

弥生系高地性集落の研究 (文部省科学研究総合分担)

文部省 (科学研究)

一九七二年 九月

大分県野鹿洞穴調査団長

新潟大学・別府大学・文部省

一九七四年 四月

大分県九重町大字二日市洞穴の調査開始 (一九六八まで)

別府大学・九重町

一九七四年 七月

大分県耶馬溪町粉洞穴調査委員長

(調査は一九七九まで)

別府大学・長崎大学

本耶馬溪町

一九七四年 九月

曾畑式土器文化と朝鮮半島櫛目文土器の研究

—大分県荻町竜宮洞穴調査—委員長

別府大学・慶応義塾大学

新潟大学・早稲田大学

韓国崇田大学・全南大学

一九七四年 十二月

長崎県里田原遺跡調査顧問

長崎県

一九七五年 三月

大分県大野川流域の調査 (大規模圃場整備事業) 顧問 (継続中)

大分県

一九七五年 四月

日本考古学協会埋蔵文化財特別委員

日本考古学協会

一九七五年 四月

韓国の史蹟調査のためソウル・扶余・慶州出張 別府大学

一九七五年 四月

縄文時代における石器石材 (サヌカイト) の総合研究 研究分担

文部省 (科学研究)

一九七五年 四月

福岡市埋蔵文化財調査指導員 (継続中)

福岡市

一九七五年 七月

大分県宇佐市上田法鏡寺遺跡調査会委員

文化庁・大分県・宇佐市

一九七五年 八月

福岡市四箇遺跡調査顧問

福岡市

一九七六年 八月

鹿児島県加栗山遺跡調査顧問

鹿児島県

一九七六年 三月

熊本県運動場公園遺跡調査顧問

熊本県

一九七六年 三月

福岡県柏田遺跡調査顧問

福岡市

一九七六年 八月

福岡市地下鉄建設における遺跡調査顧問

福岡市

一九七七年 十一月

日本考古学協会に於いて「粉洞穴の研究」を発表

熊本大学

- 一九七七年 四月
インド・アジャンター・エローラ遺跡調査 私立財団
- 一九七七年 六月
九州史学会に於いて「洞穴遺跡調査の問題点」を發表 九州大学
- 一九七七年 十一月
韓国考古学会全国大会に招待され「九州と韓国の考古学」特別講演
於 ソウル崇田大学・韓国考古学会
- 一九七八年 六月
九州縄文学会に於いて「縄文晩期農耕論」を發表 別府大学
- 一九七八年 六月
臼杵石仏復原委員会委員（現在にいたる） 文化庁
- 一九七九年 五月
日本考古学協会第四五回大会において「粉洞穴の問題点」を發表 青山学院大学
- 一九七九年 五月
日本家政学会九州支部に於いて
「白鳳期における仏像彫刻の諸相」講演 別府大学
- 一九七九年 五月
佐賀県多久市茶園原遺跡調査委員会委員長 佐賀県多久市
- 一九八〇年 二月
シンポジウム「人類の起源をどう考えるか」において
「旧石器人から縄文人への移行」を發表 別府大学
- 一九八〇年 五月
日本考古学協会第四六回大会において
「縄文早期人骨と粉洞穴」を發表 東洋大学
- 一九八〇年 六月
全国大学博物館学講座協議会大会講演「宇佐国東の仏教文化」
別府大学
- 一九八〇年 七月
中国学術調査団（敦煌）団長 別府大学
- 一九八〇年 十一月
シンポジウム「骨からみた日本人の起源」発言者として参加 長崎大学
- 日本人類学会
一九八一年 一月
シンポジウム「縄文農耕論の実証性」発言者として指名
（文部省科学研究「古文化財」） 文部省
- 一九八一年 七月
中国山西省大同市雲岡石窟の研究のため訪中 歴史・自然研究会
- 一九八一年 十一月～十二月
中国科学院古脊椎動物古人類研究より招待にて訪中 中国科学院
- 北京原人・大荔人・ラマピクテス（雲南）などの遺跡調査 別府大学
- 一九八二年 八月
中国洛陽市竜門石窟の研究のため訪中 歴史と自然を学ぶ会

一九八二年 十月

別府大学アジア歴史文化研究所講演会「埴仏の源流」

別府大学アジア歴史文化研究所

一九八二年 十二月

国際シンポジウム「東アジアの古人類と旧石器文化」にて「中国旧石器文化」を発表(中国 吳汝康・韓国 金元流・アメリカ ソールハイム・日本 内藤芳篤・賀川光夫) 別府大学文学部

一九八三年 一月

焼畑の現状調査のためタイ国に出行

歴史と自然を学ぶ会

一九八三年 九月

"Origins and Cultivated Plants of the Jomon (Strawrope patterned pottery) Culture in Western Japan. International Congress of Human Sciences in Asia and North-Africa XXXI, Section 3. TOKYO JAPAN."

一九八三年 十二月

シンポジウム「古墳以前の宮崎地方」

宮崎市教育委員会

一九八四年 一月

考古学調査のためビルマ国バガン地方に出行 別府大学

一九八四年 六月

別府大学第三回国際学術研究会「日本古代国家成立期における日・中交流史を中心として」において「日本古代国家成立に関する問題」を講演(中国日本史研究学会副会長 王金林教授、元京都大学教授 岸俊夫など) 別府大学

一九八四年 八月

農耕文化の起源の研究のため中国トルハン・ウルムチ地方に出張

歴史と自然を学ぶ会

一九八四年 十一月

シンポジウム「古墳時代の宮崎地方」 宮崎市教育委員会

一九八四年 十一月～十二月

第四次海外学術調査団長としてビルマ国に出張

別府大学・ビルマ文化省

一九八五年 一月

農耕文化の起源の研究のためインドネシア国に出張

歴史学習会

一九八五年 一月

大分県考古学会発足 会長に就任

一九八五年 二月

シンポジウム「古代の中津地方」 中津史跡保存会

一九八五年 四月

日本考古学会第五一回大会公開講演「日本における稲作の起源」

会場 日本大学文理学部 日本考古学協会

一九八五年 五月

韓国博物館(国立・大学)視察 忠南大学招待

一九八五年 九月

シンポジウム「終末期古墳時代の宮崎地方」 宮崎市教育委員会

一九八五年 十一月～十二月

天津市社会科学学院ならびに中国日本史研究学会の招待で、天津市南开大学・沈陽市遼寧大学・上海市復旦大学・上海大学・上海博物館

において「考古学よりみた中・日交流」についての特別講演をおこなう。
天津市社会科学院日本研究所・中国日本史研究学会

一九八六年 一月
小乗・大乘仏教芸術の調査のため、インド国中部サンチ遺跡などを訪問。
歴史と自然を学ぶ会

一九八六年 三月
シンポジウム「古代の中津地方」第二回
中津史跡保存会

一九八六年 八月
小規模水田実地見学のため中国新疆ウイグル自治区タクラマカン砂漠周辺調査
歴史学習会

一九八六年 十一月
学術討論会「韓日古代文化の諸問題」において
「日本における稲作」を発表（ソウル市）
韓日文化交流基金・韓国

一九八七年 一月
インド、ネパール仏蹟調査
歴史学習会

一九八七年 三月
シンポジウム「古代の中津地方」三（中津）
中津史蹟保存会

一九八七年 五月
「豊の国における古代史講演会」において「漢の鏡と魏の鏡」講演
国東半島・宇佐の文化協議会

一九八七年 十月
公開講演会「東アジア農耕文化の展開」において「縄文晩期農耕論」講演（元京都大学教授 渡部忠世、元慶応義塾大学教授 江坂輝弥 など）
別府大学付属博物館

一九八七年 十一月

中国天津社会科学院招待により訪中、天津南開大学・済南山東大学・徐州師範大学・南京大學・上海復旦大學にて講義「考古学よりみた中・日交流」
天津人民政府・中国日本史研究学会

一九八八年 五月
「三角縁神獸鏡の問題点」
上海市歴史学会

一九八八年 七月
シンポジウム「日本古代史の中の宇佐」（九州歴史資料館長 田村 円澄、九州大学教授 西谷正、京都芸術大学教授 田辺昭三、奈良女子大学教授 佐藤宗諄などと）
全日本航空株式会社
大分県

一九八八年 七月
公開講演会「食用植物栽培の起源」
日本家政学会九州支部

一九八九年 八月
「日中韓を結ぶ稲の道」（中国）社会科学院 安志敏・（韓国）ソウル大学 金元竜・（日本）別府大学 賀川光夫・九州大学 西谷正
『MUSEUM KYUSHU』―特集・農耕文化論の周辺―第三一号
（博物館等建設推進九州会議）
西日本新聞社

一九八九年 十二月
シンポジウム『吉野ヶ里・邪馬台国・大分』九州大学 西谷正・山口大学 近藤喬一・佐賀県参事 高島忠平・別府大学 賀川光夫（大分合同新聞社・歴史と自然を学ぶ会）
大分市コンパルホール
歴史と自然を学ぶ

一九九〇年 九月

シンポジウム「古代の日田」 日田市会館（江上波夫・森浩一・黒岩重吾とともに）
高句麗研究会・日田商工会議所

一九九〇年 九月

長崎県文化財展記念講演 於福江市文化会館

（島と海流の考古学）

一九九〇年 十月

シンポジウム「臼杵磨崖仏の諸問題」

（渡辺澄夫・田村田澄などとともに）

大分放送

一九九〇年 十月

シンポジウム「九州の縄文文化をどう考えるか」

（名古屋大 渡辺誠・ソウル大 任孝宰などとともに）

熊本県民文化祭 於天草会館 熊本県教育委員会

一九九一年 十一月

シンポジウム「東アジアにおける弥生文化と安国寺集落遺跡」

国東町・国東町教育委員会

一九九二年 二月

「先史古代の日韓交流と大分」 日本シンポジウム

『考古学からみた日韓交流』 基調講演を行う 於大分

大分県教育委員会

一九九二年 七月

「中日交流史上の友好使者―記念中日邦交正常化二十周年国際学術討論会」に招待され『三角縁神獣鏡と鏡師陳是』を発表 於北京

中国社会科学学院

一九九二年 五月

「日本文化の源流を探る」『倭と越』シンポジウムにおいて
「焼畑と稲作」を講演 東アジア交流史会

一九九三年 一月

主催 中国国際文化交流中心「日韓の古代仏教文化交流と大分」日韓シンポジウムⅡ『仏教文化成立と展開』を司会する 於宇佐
大分県教育委員会

一九九三年 五月

「日中韓古代シンポジウム」で「農耕の起源と唐津市の調査」を講演、中国社会科学学院安志敏教授などと共演

唐津

一九九三年 六月

古稀祝賀会、古稀祝賀委員会にて別府市白菊にて祝賀会を開き、

日本考古学協会委員長 横山浩一、大分県教育長 宮本高志氏など

より祝賀の挨拶をいただく。

一九九三年 十月

「アジア文明交流史シンポジウム」
古稀祝賀委員会

一九九三年 十月

「北部九州弥生時代環濠集落」討論

北京大学嚴文明教授など共演（福岡）

福岡市教育委員会

一九九三年 十月

「後藤碩田特別展」大分市資料館において「豊後碩学、後藤碩田」を講演

大分市教育委員会

一九九四年 一月

日韓古代シンポジウムⅢ、「日韓農耕文化の起源」でコーディネーター（大分）

大分県教育委員会

一九九四年 二月

「日韓古代文化と宇佐」シンポジウム釜山大学申教授、横山邦継氏
などと討論(宇佐) 宇佐市教育委員会

一九九四年 二月

講演「臼杵磨崖仏」松島健(文化庁美術工芸課)
賀川光夫(於…大分コンパルホール)

九州博物館誘致委員会・福岡県・大分県

一九九四年 三月

「照葉樹林文化 韓国・九州」講演

福岡市立博物館

一九九四年 九月

「臼杵石仏修理40年」(於…臼杵市中央公民館大ホール)

別府市・臼杵市

一九九四年 十一月

「日韓交流の考古学」日韓シンポジウムIV、ソウル大学 崔夢龍、
東亜大学校 李正暎氏と共演(於…釜山土)

大分県教育委員会・東亜大学校

一九九五年 一月

日韓シンポジウム・「宇佐仏教と日本仏教」
全南大学全業來教授と共演(於…宇佐市)(同年一月二十九日まで)

宇佐市教育委員会

一九九五年 五月

臼杵磨崖仏国宝昇格記念特別講演
「臼杵磨崖仏保存修理への取り組み」 臼杵市・臼杵教育委員会

一九九五年 七月

栃木県考古学会30年記念講演「考古学よりみた日中古代文化」
(於…宇都宮市) 宇都宮・県立博物館

一九九五年 十月

敦煌・臼杵市友好都市(臼杵石仏、敦煌莫高窟討論
(同年十月二十日まで) 大分県・臼杵市

一九九六年 一月

インド・ネパール仏教遺跡調査(同年一月十三日まで)

一九九六年 三月

日本洞穴遺跡研究会で枋洞穴遺跡を発表(同年三月十五日まで)
日本洞穴遺跡研究会

一九九六年 九月

中国竜門石窟研究調査(同年十月五日まで)

一九九六年 十一月

日田フォーラム(弥生時代の水迫・辻原討論、講演)

別府大学・大分県・日田市

一九九七年 一月

古代宇佐仏教と東アジア―虚空蔵寺出土の専仏の源流―

別府大学史学研究会

大分県考古学会

一九九八年 二月

文化財合同研修会(川部遺跡) 宇佐市教育委員会

一九九八年 八月

照葉樹林文化(市民環境歴史講座「駅館川の自然と歴史」)

一九九八年 十一月

シンポジウム「環境Ⅱ自然・文化遺産」

宇佐市教育委員会

一九九九年 十一月

河姆渡遺跡と安国寺集落遺跡

歴史と自然を学ぶ会

二〇〇〇年 五月

縄文人の暮らしと九重町

中国交流事業実行委員会

九重町教育委員会

二〇〇〇年 八月

現地指導(亀石山遺跡)

天瀬町教育委員会

二〇〇〇年 十月

記念講演「九州考古学七十年」

九州考古学会

〔付記〕

一九九二年五月分までは『賀川光夫・人と学問―賀川光夫先生古稀記念文集』に付されている「年譜―賀川光夫先生の調査研究活動の航跡」を参照した。

賀川光夫先生の著書・論文

(※は著書)

一九四八(昭和二三)年

白塚古墳について(謄写印刷) 大分県教育委員会報告
大分県史蹟地図地名表 大分県教育委員会

十二月

一九四九(昭和二四)年

※古い文化と郷土 大分県教組
豊後国佐伯市下城弥生式遺跡の調査(謄写印刷) 大分県教育委員会報告

十月

一九五一(昭和二六)年

名草台(謄写印刷) 別府大学上代文化研究所
東九州地方における押捺文土器と弥生式土器 考古学雑誌三七卷一号
東九州短信二題 貝塚三三号
大分県日田市付近に於ける裝飾古墳 考古学雑誌三七卷五号

四月

四月

五月

十一月

鬼塚古墳

国見町教育委員会

一九五二(昭和二七)年

大分県古代文化写真集 臼杵市下山古墳特集 大分県教育委員会
近代モダンリズムへの反省 鬼塚古墳壁画より 文化財月報三

三月

文化財月報三

十二月

大分県貝塚地名表其の一・二 杵築高校郷土研究三

大分県(豊後国)速見郡八坂村七双司古墳に就いて

杵築高校郷土研究三

東国東郡富来町大字浜崎孤塚古墳盗掘跡調査報告

大分県教育委員会報告

一九五三(昭和二八)年

大分県古代文化写真集 古墳外形と内部構造 大分県教育委員会
東九州地方における裝飾古墳の研究 別府女子大学紀要三

二月

別府女子大学紀要三

二月

新たに発見された東九州の銅銚銅戈

考古学雑誌三九卷二号

八月

東九州における三つの竪穴式石槨を有する古墳

西日本史学一五

十月

大分県玖珠郡森町名草台千人塚古墳石槨群調査報告

大分県教育委員会報告

一九五四(昭和二九)年

考古学上より見た上代の宇佐地方 別府大学紀要四
豊後鬼塚古墳の壁画 大分県文化財調査報告二
豊後上野磨崖石塔の研究 大分県文化財調査報告二
豊後国下城弥生式遺跡に於ける鉄器遺物の編年に関する一考察 大分県地方史一
虚空蔵寺址発見傳仏 大分県地方史一
箱式棺を外柩設備とする埴棺 考古学雑誌四〇卷三号

二月

三月

三月

四月

四月

四月

十二月

一九五五(昭和三十〇)年

※大分市史 共著

早水台

大分市 四月

大分県文化財調査報告三 共著

大分県教育委員会

六月

豊前中津市相原廃寺調査報告

中津市教育委員会

六月

社会科学のための郷土史講座

上古の大分県

六月

大分県地方史四

一九五六(昭和三一)年

※日本考古学講座 縄文 共著

普光寺遺跡と田村遺跡

河出書房

二月

佐伯市における二仏像と大蔓茶羅

NHK調査報告一

四月

豊前中津市城山古墳

NHK調査報告二

五月

大分県七ツ森古墳調査報告

中津市文化財報告二

五月

大分県七ツ森古墳調査報告

大分県文化財調査報告四

五月

一九五七(昭和三二)年

東九州における二、三の在銘鏡

日本大学考古学通信四

二月

大分県北海部郡小六洞穴

日本考古学年報六

三月

大分県名草台古墳

日本考古学年報五(二七年度)

三月

白濁遺跡 共著

佐伯市教育委員会

四月

大分県中津市植野貝塚

中津市文化財報告三

五月

考古学上より見た上代の宇佐地方

大分県文化財調査報告五

五月

宇佐弥勒寺に関する二、三の問題

別府大学紀要七

七月

原史時代の別府

大分県地方史一二号

七月

押型文土器共伴資料

九州考古学二

九月

一九五八(昭和三三)年

宇佐の弥勒寺

毎日新聞学芸

二月

※由布山周辺の上古代 由布山

由布院町

三月

大分県中津市植野貝塚調査報告

中津市教育委員会

三月

※大分県の文化財(第一集) 共著

大分県教育委員会

三月

大分県駅館川町虚空蔵寺址

日本考古学年報七

三月

大分県竹田市七ツ森古墳

日本考古学年報七

三月

大分県国東町安国寺弥生式遺跡の調査 共著

九州文化総合研究所

五月

宇佐と畿内

朝日新聞学芸

七月

琉球先史文化

毎日新聞学芸

十月

五遺骸以上埋葬の例——大分県大分市大字木上字世利門古墳

考古学雑誌第四四卷第一号

六月

宇佐弥勒神宮寺址第三次調査概報 共著

九州考古学五・六

十一月

※大分県の文化財(第二集) 共著

大分県教育委員会

三月

法恩寺古墳 共著

日田市教育委員会

三月

沖縄宜野湾村大山貝塚調査概要

琉球政府文化財報告一

六月

九州における縄文晩期の甕棺

石器時代五

九月

沖縄における遺跡の現状

考古学研究第六卷二号

九月

※はりのろ

別府大学

十二月

※はりのろ

別府大学

十二月

一九六〇（昭和三五）年

へなたりとあかがい 西日本史学一五 三月

大分県東国東郡国東町ワラミノ遺跡調査報告

大分県文化財調査報告六 三月

大分県大野郡朝地町田村遺跡の調査報告

朝地町教育委員会 四月

大分県東国東郡竹田津町祭祀遺跡 共著

大分県東国東郡竹田津町 四月

中国先史土器の影響

古代学研究二五 八月

石棒と土偶 朝日新聞学芸

稲作の起源に関する一問題 日本産業史大系 十月

早期縄文土器の新資料——大分県直入郡荻町政所出土—— 考古学雑誌第四六卷第三号 十二月

一九六一（昭和三六）年

琉球列島の先史文化の一考察——沖縄本島の土器を中心として

日本大学史学科研究論文集 三月

縄文後晩期の大陸文化の影響

歴史教育第九卷三号 三月

弥勒寺遺跡 共著

大分県文化財調査報告七 三月

宮崎県文化財報告

※大分県浜遺跡 日本農耕文化の生成 三月

七双子古墳の調査 日本考古学協会編 朝日新聞学芸 六月

一九六二（昭和三七）年

後期古墳の研究「豊」 古代学研究三〇 三月

島原半島の考古学調査第二次概報小浜遺跡

九州考古学一四 三月

九州の縄文時代石刀・石剣（二） 東九州関係

七双子古墳 共著 九州考古学一四 三月

※続 沖の島宗像神社沖津宮祭祀 共著 大分県文化財調査報告八 三月

陣内遺跡 日向遺跡調査報告二 共著 吉川弘文館 三月

風俗土偶の出土 宮崎県教育委員会 毎日新聞学芸 三月

大分県聖嶽岳洞穴の調査 洞穴遺跡調査会報四 五月

一九六三（昭和三八）年

大分県速見郡早水台遺跡 日本考古学年報六 三月

※日本考古学辞典 共著 日本考古学協会編 三月

川原田洞穴調査概報 洞穴遺跡調査会会報七 七月

川原田洞穴の古人骨 朝日新聞文化 七月

大分県大野郡朝地町稲荷・草木洞穴概報 洞穴遺跡調査会会報九 十月

一九六四（昭和三九）年

昭和三十八年度日本考古学協会洞穴遺跡調査特別委員会の調査二題 九州考古学二〇・二一一 一月

曾畑式土器に関する一考察 共著

最近の考古学調査から
大分県地方史三四
四月

所謂鐘ヶ崎式土器の層位出土の新例(小池原式の設定)
大分県地方史三四
四月

大分県大野郡緒方町大石遺跡の調査
——縄文晩期初頭磨製石器の新例——共著
大分県地方史三四
四月

風葬の谷 大野川上流の洞穴
毎日新聞学芸
九月

長崎・大分両県における昭和三九年度夏期調査概要
九州考古学二三
十月

洞穴遺跡調査の三年間
毎日新聞学芸上・下
三月

一九六五(昭和四〇)年
豊後向野廃寺調査報告書 共著 山香町教育委員会
三月

※九州東南部——縄文文化の発展と地域性——
日本の考古学II・縄文時代
河出書房新社
六月

※大分県の石仏
大分県における考古学調査の概要 共著
日の丸印刷
十月

豊後向野廃寺調査概報 共著
九州考古学二五・二六
十月

大分県地方石人石馬関係資料の調査 共著
九州考古学二五・二六
十月

続 早水台 共著
大分県文化財調査報告九
十一月

西南日本の旧石器文化
朝日新聞文化
十一月

農耕文化起源
毎日新聞学芸
十一月

一九六六(昭和四一)年
縄文時代の農耕
考古学ジャーナル二
二月

縄文式晩期農耕文化の研究に関する合同調査 昭和四〇年度、
大分県大野郡緒方町大石遺跡
別府大学
三月

※中津市史 共著
中津市史刊行会
四月

※大分の木彫
考古学における日韓交流
朝日新聞文化
五月

※大分の庶民仏教
昭和四一年度緊急発掘調査概要——黒山遺跡・馬場・中ノ原古墳
日の丸印刷
七月

緊急調査
大分県教育委員会
三月

一九六七(昭和四二)年
縄文文化の円形スタジアム
朝日新聞学芸
一月

円形土城の発掘
縄文晩期農耕の一問題
考古学ジャーナル六
二月

縄文晩期農耕文化に関する一問題——石刀技法——
考古学雑誌第五二巻第四号
三月

※大分県聖岳洞穴 日本の洞穴遺跡
日本考古学協会
三月

野間古墳横尾貝塚小池原貝塚緊急発掘調査 共著
大分県文化財調査報告一三
三月

大分県南海郡聖嶽洞穴遺跡
日本考古学年報一五
三月

大分県大野郡大石遺跡
日本考古学年報一五
三月

縄文式晩期農耕文化に関する合同調査
九州考古学三一
四月

※安岐町史 共著

安岐町史刊行会

五月

※日本縄文文化の研究 中谷治宇治郎遺稿集

昭森社

八月

深堀遺跡 人類学考古学研究報告1

長崎大学医学部

九月

※朝地町史 共著

朝地町史刊行会

十月

縄文後晩期農耕文化の一問題——石鍬考——

史叢一〇巻

十二月

一九六八(昭和四三)年

「サイド・ブレード」について一

考古学ジャーナル一六

一月

「サイド・ブレード」について二

考古学ジャーナル一七

二月

中ノ原・馬場古墳発掘調査報告

共著

三月

大分県大野郡稻荷洞穴遺跡

大分県文化財報告一五

三月

大分県速見郡川原田洞穴遺跡

日本考古学年報一六

三月

日本石器時代の農耕問題

日本考古学年報一六

三月

黒山遺跡発掘調査報告

歴史教育一六巻四号

四月

大分県文化財調査報告一七

大分県文化財調査報告一七

十二月

PROBLEME DE LA CIVILISATION AGRICOLE A L'EPOQUE DE BAN ENLEERE DE JOMON

Memoirs of Beppu University No.6

十二月

一九六九(昭和四四)年

※縄文晩期文化 九州

新版考古学講座三 雄山閣

五月

縄文時代のカメラ棺(1)

考古学ジャーナル三四

七月

縄文時代のカメラ棺(2)

考古学ジャーナル三五

八月

礫石器の下限

古代文化二二巻七号

八月

縄文時代のカメラ棺(3)

考古学ジャーナル三七

十月

縄文早期の礫器

古代文化二二巻一二号

十二月

一九七〇(昭和四五)年

日本始原文化の研究一「書評」

考古学ジャーナル九五

二月

大分県大分市横尾貝塚

日本考古学年報一八

三月

大分県大分市小池原貝塚

日本考古学年報一八

三月

大分県緒方町大石遺跡

日本考古学年報一八

三月

大分県大分市野間古墳群

日本考古学年報一八

三月

縄文後期磨消縄文Ⅲ式の文化

九州縄文後期の問題

三月

旧石器遺跡と偽石器

共著

古代学研究五七

五月

稲荷山遺跡調査報告

共著

古代文化二二巻五号

五月

弥生時代の大条溝

大分県文化財調査報告二〇・二二

八月

福岡県筑紫野町常松遺跡調査報告

共著

朝日新聞文化

九月

別府大学考古学研究報告一

共著

別府大学考古学研究報告一

十月

縄文文化の起源と押捺文土器の発達

史学論叢五

史学論叢五

十月

一九七一(昭和四六)年

宇佐遺跡の保存

朝日新聞文化

朝日新聞文化

一月

持田ヶ浦古墳群一・二号調査報告

共著

福岡市埋蔵文化財調査報告一六

三月

古代宇佐と文化財の保護

毎日新聞文化

毎日新聞文化

三月

- | | | |
|--|-----------------------------|-----|
| 大分県大野郡大石遺跡 | 日本考古学年報一九 | 四月 |
| 宇佐市法鏡寺址出土の古瓦 | 考古学ジャーナル五五 | 四月 |
| ※大分県の考古学 | 吉川弘文館 | 六月 |
| 弥生式の国 三沢遺跡 | 西日本文化七二 | 六月 |
| 朱をつめた古墳 | 歴史読本八月号 | 八月 |
| 城山遺跡群発掘調査概要 共著 | 福岡県夜須町教育委員会 | 九月 |
| Symposium 海洋の考古学 石器時代の海上交通 | 海洋科学 二二三 | 九月 |
| 特集 現代都市と都市遺跡——府内—— | 古代学研究六九 | 十月 |
| 西日本における礫器の問題 | 第四紀研究一〇巻四号 | 十二月 |
| 一九七二(昭和四七)年 | | |
| 農耕文化の起源に関する研究
(大分県荻町桜山遺跡・恵良原遺跡・横迫遺跡) | 別府大学考古学研究報告二 | 三月 |
| ※縄文文化シンポジウム 共著 | 学生社 | 八月 |
| 食物のアク抜きと農耕の起源 | 考古学ジャーナル七三 | 九月 |
| ※農耕の起源 | 講談社 | 九月 |
| 一九七三(昭和四八)年 | | |
| Etude sur l'utilisation de la pierre en fleche
KOKOGAKURONSO No.1 | 日本考古学年報二四 | 三月 |
| 小高野遺跡 | 別府大学考古学研究報告三 | 三月 |
| 野鹿洞穴の研究 大分県直入郡荻町 | | |
| 立石遺跡 | 日本考古学年報二四 | 三月 |
| 横迫遺跡 | 日本考古学年報二四 | 三月 |
| 原生国群の崩壊と古代国家の成立過程 | 生活と科学一三 | 十月 |
| ※大分県石仏行脚 共著 | 木耳社 | 十月 |
| 宇佐市川辺・高森地区の考古学的調査 共著 | 大分県教育委員会 | 十二月 |
| 一九七四(昭和四九)年 | | |
| 北九州の農耕文化の始まり | 東青高校通信日本史No.108 | 三月 |
| コウゴー松遺跡調査報告 共著 | 直入郡久住町教育委員会 | 三月 |
| 立石貝塚 共著 | 大分県文化財調査報告三一 | 三月 |
| 小高野遺跡調査報告 | 別府大学考古学研究報告四 | 三月 |
| ※佐伯市史 原史・古代 | 佐伯市史編纂会 | 五月 |
| 縄文時代のカメ棺の出現と弥生文化前段の問題 | 考古学論叢二 | 五月 |
| 一九七三年考古学会の動向 | 縄文時代西日本 | 五月 |
| Primitive Agriculture in Japan Latest Jomon Agricultural Society and Means of production | 考古学ジャーナル九四 | 五月 |
| ※日本考古学の視点(上) 共著 | Asian Perspective Vol.XV(1) | 五月 |
| 一九七五(昭和五〇)年 | | |
| ※宇佐市史(上) 共著・監修 | 日本書籍株式会社 | 十一月 |
| 縄文後期黒色磨研土器——所謂磨研土器の系譜とその背景—— | 宇佐市史刊行会 | 三月 |

考古学論叢三

七月

仏教公伝と伽羅建設の一問題 中津市伊藤田瓦窯址 百済廃寺考

大分県歴史資料集 大分大学教育学部 八月

一九七六(昭和五二)年

ネギノ遺跡 共著 大分県文化財調査報告三五 三月

考古学上より見た古代の中津平野 別府大学紀要一七号 三月

※宇佐 共著 木耳社 三月

※宇佐の歴史 共著・監修 宇佐市史刊行会 三月

※大分の歴史一 ふるさと誕生 大分合同新聞社 十一月

一九七七(昭和五二)年

特集 板碑の諸問題II 九州の板碑 共著 考古学ジャーナル一三二 二月

縄文晩期農耕論についての覚え書 別府大学紀要一八 二月

※宇佐市史(中) 監修 宇佐市史刊行会 三月

九州の円筒土器とその編年の問題 考古学論叢四 六月

大分県粉洞穴発掘調査概報一・二次 共著 考古学論叢四 六月

一九七八(昭和五三)年

弥生終末の社会 毎日新聞文化 二月

所謂九州外域における後漢鏡の出土背景 日本大学史学科五〇周年記念論文集 四月

日本の縄文土器展 共著 別府大学付属博物館 五月

稲作の起源と板付遺跡 朝日新聞文化 六月

特集・縄文人の生活「弥生以前に始まった稲作」 科学朝日三八巻九号 九月

※宇佐 大陸文化と日本古代史 共著 吉川弘文館 十月

一九七九(昭和五四)年

縄文時代の稲作文化 歴史読本二四巻一号 一月

粉洞穴の調査と問題点——縄文人骨の出土と埋葬の問題—— 江坂輝彌還曆論文集 考古学ジャーナル一七〇 十二月

太古の歴史——粉洞穴 共著 本耶馬溪町教育委員会

一九八〇(昭和五五)年

所謂「陽樹」と採集食物の加食 生活と科学一七 二月

大野原の遺跡 共著 大野町教育委員会 三月

縄文時代の埋葬と粉洞穴 別府大学付属博物館だより七五号 三月

縄文農耕論一・二の問題——イネ作とその農法 古文化論攷 鏡山猛先生古稀記念論集 十月

宇佐・国東・臼杵の遺跡 大分県大野町史 監修・共著 大野町史刊行会 十二月

※大分県大野町史 監修・共著 大野町史刊行会 十二月

瑞穂 福岡市比恵台地遺跡 瑞穂遺跡の調査 日本住宅公団 十二月

一九八一(昭和五六)年

敦煌莫高窟二一五号前室の坩仏「MUSEUM」三五八号 東京国立博物館美術誌一月号 一月

大野町史刊行会

大野町史刊行会

大野町史刊行会

大野町史刊行会

大野町史刊行会

大野町史刊行会

大野町史刊行会

大野町史刊行会

大野町史刊行会

大野町史刊行会

- 仏教美術の源流探訪(一) 塚仏と塑像東漸 史学論叢 三月
 日本における稲作の始まりを考える「受験の日本」八巻一号 四月
 いわゆる曾畑式土器の問題点 考古学ジャーナル一八八 四月
 シンポジウム 骨から見た日本人の起源 共著 四月
 季刊人類学 一二巻一号 四月
 一九八二(昭和五七)年
 政所馬渡 編著 別府大学付属博物館 二月
 九州の縄文晩期と穀物 シンポジウム縄文農耕論の実証性 古文化財研究 三月
 曾畑式文化について 宇木汲田遺跡の石器 弥生石器における縄文の影響「末盧国」 唐津湾周辺遺跡調査委員会 四月
 西日本農耕起源雑考 古文化論集 四月
 森貞次郎博士古稀記念 月刊歴史教育 三八号 四月
 国東・臼杵の平安文化 別府大学付属博物館だより一一 五月
 大分県粉洞穴の発掘調査 共著 郷土史展望 創刊号 十一月
 大分の磨崖仏 季刊考古学 創刊号 十一月
 縄文晩期農耕論 考古学ジャーナル二二二 十二月
 ブタと農耕とコメのルート 一九八三(昭和五八)年
 一 宗教考古学の諸相——キリスト教 季刊考古学 二号 二月
 ※竹田市史上巻 編著——原始時代 三月
 ※大分市史原始時代一 編著 日本考古学年報三三三 三月
 大分県粉洞穴 日本考古学年報三三三 三月
 一九八〇年度各都道府県における発掘調査の概要——大分県 日本考古学年報三三三 三月
 ※大分の古代美術 大分放送局 編著 五月
 Man and Culture East Asia in Terms of Archeology and Anthropology Review of Historical Studies N.14 三月
 Origins and Cultivated Plants of the Jomon (straw-rope patterned pottery) Culture in Western Japan International Congress of Human Sciences in Asia North Africa XXXI, Section 3 九月
 宇佐虚空蔵寺塔趾発見の埴仏 九州歴史資料館開館十周年記念 太宰府古文化論叢 十二月
 一九八四(昭和五九)年
 Christian Relics Discovered at Nyu Hill in Oita City Memoirs of Beppu University No.25 一月
 "Cultural origins and domesticated plants of the Jomon culture in western Japan," Proceedings of the thirty-first international congress of human sciences in Asia and north Africa. 1984.3 TOKYO. 国書刊行会 四月
 ※日本の石仏 編著(一)九州編 三毛の文化一 五月
 上ノ原横穴墓群に学者の要望 史学論叢一五号 六月
 臼杵磨崖仏造顕の背景 六興出版社 十月
 ※黄土帯帯紀行
 一九八五(昭和六〇)年
 日本への農耕伝播の一問題——私考ムギの伝播について 日本史の黎明 八幡一郎先生頌寿記念考古学論集 三月

大分県の古代文化 大陸と畿内

月刊歴史手帳第一三巻第四号 四月

※大分県早水台遺跡——九州の押型文文化

探訪縄文の遺跡 西日本編 七月

※大分県大石遺跡——縄文農耕打製石斧と穂摘具

探訪縄文の遺跡 西日本編 七月

※粉洞窟——縄文時代の埋葬

探訪縄文の遺跡 西日本編 七月

※中谷治宇二郎のバリ留学時代——中谷治宇二郎・考古学の旅

六興出版社 十一月

先史地理学からみた縄文文化早期の九州

考古学ジャーナル二五六 十一月

豊（大分県）の考古学 特集・豊（大分）の考古学

えとのす二九号 十二月

宇佐市虚空蔵寺塔跡出土埴仏の源流

三毛の文化四 十二月

一九八六（昭和六一）年

考古学と農耕の起源 考古学ジャーナル二六〇 三月

速報 安国寺遺跡の発掘調査 共著

別府大学付属博物館だより二二 三月

豊前、初期仏教文化の先進性——古代寺院の性格を考える

三毛の文化五 五月

大分県考古学会の発足にあたって 大分県考古学会報一 十一月

伊藤田城山窯跡群調査の意義と成果 三毛の文化六 十二月

一九八七（昭和六一）年

※本耶馬溪町史 共著 本耶馬溪町史刊行会 三月

ボウガキ遺跡——土器と年代——三保の文化四八 九月

縄文晩期農耕論 別府大学付属博物館だより二七 十月

稲作起源に関するいくつかの問題 東アジアと日本

田村圓澄先生古稀記念論文集十一月

東アジアの前期旧石器文化 東アジアの考古と歴史 上

岡崎敬先生退官記念論集 十一月

陽樹と陰樹の中の文化 特集・古代日向人の生活空間

えとのす三一号 十二月

※安国寺遺跡 探訪弥生の遺跡 西日本編 十二月

一九八八（昭和六三）年

中津バイパスの重要遺跡の意義 三毛の文化八 一月

関于稲作起源的幾個問題 繆曉艶訳 農業考古 中国

南昌博物館 一月

縄文晩期の石器 特集・日本の石器文化

考古学ジャーナル二八七 二月

縄文時代埋葬についてのひとつの考察——アジアの葬制と粉洞穴

日本民族・文化の成生（二） 永井昌文教授退官記念論文集 三月

中国長江流域にみる編物（網代）について

——曾畑貝塚出土資料と関連して——『曾畑』

熊本県文化財調査報告一〇〇 三月

古代住居跡小考——家屋文鏡の考察から——考古学叢考中巻

斎藤忠先生頌寿記念論文集刊行会 十月

竜山文化邑落遺構考——殷（商）前代文化予察——

鎌木義昌先生古稀記念論文集

十二月

土偶祭式とタイ国陶器偶

Monsoon 第六号

広島大学アジア史研究室編

七月

一九八九(平成元)年

鏡師陳是と神獸紋飾の源流 共著 別府大学紀要第三〇号

一月

同向式神獸鏡と景初・正始年鏡 別府大学紀要第三〇号

一月

「銅出徐州」と「三角縁神獸鏡の原流」 共著

二月

史学論叢第一九号

中国鏡の出土からみた邪馬台国

二月

東アジアの古代文化六一号

縄文後期磨消縄文共伴土製品——分銅形土偶の新資料——

十月

おおいた考古二集

十一月

一九九〇(平成二)年

西日本の土偶出現期と土偶の祭式 別府大学紀要第三二号

一月

夏・商(殷)都城遺構考 共著 史学論叢第二〇号

二月

同向鏡式神獸鏡と景初・正始年鏡 文博 三四号(林隠沢)

三月

飛鳥の三尊博仏——敦煌から竜門石窟の倚像——

三月

史学論叢二二号

三角縁神獸鏡の源流——日月天王環状乳神獸鏡(洛陽鏡)——

六月

乙益重隆先生古稀記念 九州上代文化論集

十一月

一九九一(平成三)年

後漢末三国鏡の画像と銘文——景初四年銘文をめぐって——

一月

児島隆人先生喜寿記念論集 古文化論叢

一月

中国後漢末銅鏡——画像鏡と各種三角縁鏡体について——

六月

交流の考古学 三島格古稀記念号

六月

一九九二(平成四)年

再生鏡の分配と弥生後期の社会

史学論叢二二号

二月

一九九三(平成五)年

焼畑と水田——初期稲作の問題 考古論集 潮見浩先生退官記念事業会編

三月

金銀錯嵌珠竜文鉄鏡

史学論叢二三号

三月

※瓦礫

山口書店

六月

一九九四(平成六)年

後藤碩田と考古学

大分市歴史資料館年報

八月

日韓古代史二題

第四回日韓シンポジウムレジュメ

十一月

一九九五(平成七)年

ミツチエル・ブレジオン

ぢかたび三五号

二月

豊国の原像を求めて

おおいた考古七

五月

史学科創設三十年の歩み

史学論叢二五号

二月

白杵磨崖仏・修復四十年

白杵石仏(吉川弘文館)

五月

白杵石仏の調査と研究

白杵石仏(吉川弘文館)

五月

白杵石仏終論——満月寺——

風土記の考古学四(同成社)

五月

考古学的にみた豊後磨崖仏

白杵史談八六号

十二月

大日如来像の像立・崩壊・修復

古代朝鮮文化を考える十

十二月

文化財保護の難しさ

十二月

一九九六(平成八)年

考古学と文化遺産憲章

考古学ジャーナル三九九

二月

九州地方の弥生文化研究回顧

考古学ジャーナル四〇〇

三月

※賀川光夫古稀記念著作集

京都修学社

三月

——九州の黎明と東アジア——

五月

一九九七(平成九)年

九州地方の考古学回顧(一)

史学論叢二七号

三月

漢魏鏡の伝播

私家版

五月

一九九八(平成十)年

大分県川原田岩陰の再検討

おおいた考古九・十

三月

狩猟・漁猟と採集の生活―縄文時代―

原始・古代の長崎県 通史編

三月

(長崎県教育委員会)

黒塚古墳と三角縁神獣鏡

別府史談十二

十二月

一九九九(平成十一)年

縄文中期農耕論

史学論叢二九号

三月

二〇〇〇(平成十二)年

※考古叢帖

別府大学史学研究会

大分県考古学会

一月

縄文中期農耕論(昭和第二期)

史学論叢三〇号

三月

食べ物が湧いてくる森

考古学ジャーナル四五七

四月

二〇〇一(平成十三)年

二十一世紀への伝言「葛原古墳とその主」を読んで

葛原古墳とその主(吉用篤也著)

二月

大分県の考古学

九州考古学七五号

六月

[付記]

一九九三(平成五)年三月分までは『賀川光夫古稀記念著作集』

——九州の黎明と東アジア——に付されている「賀川光夫先生の著書・論文」目録を参照した。

賀川光夫先生のエッセー 月刊『ミックス』掲載(文と絵)

一九九〇(平成二)年

三月号 土人形(土偶)の破壊

四月号 千古の歴史を秘めて寂光院 平家物語、大原御幸の幻を見る

五月号 香辛料の国インドで チャパティとチャナ・ダール

六月号 名水は枯れる―猿の一言

七月号 寸暇も銭、寸土も銭―地球温暖化とリゾート開発

八月号 私のヘソ曲がりには正常位

―行政が進んでゴルフ場づくりとは

九月号 世界最古の土器とドングリ山―便利は危険

十月号 「私の紅衛兵時代」―そして自然からのメッセージ

十一月号 西域の思い出―トルファンの葡萄樹と胡旋舞

十二月号 カントップの珍珠 五島のハコフグは天下無類の味

一九九一(平成三)年

一月号 戦争を知らない総理大臣に

―平和憲法はこうして出来た

二月号 経済とは飯を食うことなり

―義をみてせざるは勇なきなり

三月号 「うだつ」のあがらぬ会―技量拔群と反骨との関係

四月号 自然知らずの自然保護

―孔子様の頃とは時代が違うのです

五月号 平城宮跡から「清酒」の木簡が出土―酒の起こり

六月号 陶磁器鑑賞(景德鎮と李朝)

―「有楽」の名で知られる大井戸茶碗

七月号 「金と塵とは積もるほど汚い」は本当の話

―金持ち他人を助けず

八月号 卑弥呼と鏡

―猜疑心の強い神憑りの老女

九月号 金銀錯嵌珠龍文鉄鏡

―日田市出土の渡来鏡、東京国立博物館に展示

十月号 グルメなんて言葉は止そう

―目の玉が飛び出るほど高い握寿司

十一月号 あこがれ―庶民のユーモアと風流に生きたい

十二月号 少数民族恋の歌―私の心は恋する男の胸の内に

一九九二(平成四)年

一月号 稲作を考える―日本の農業はどこへ行く

二月号 マイカー無頼様よろしく

―マナーが悪い大分県のマイカー

三月号 文化財は人類生存のもと

―エコノミック・アニマルの怖い話

四月号 記録保存という名の文化財

―沢山の遺跡が発掘後に破壊される

但馬屋東子司に御座候―野点にびつたりのお茶舗の味

五月号 大山積神社と庚申塔

―ユーモア漂う強い個性の国東庚申塔

七月号 石頭メと叱られるとブライドが傷つく

―三尺下がって師の影を踏まず

八月号 アカシア・マーンジーと水神社

―水を買って飲む時代がすぐに

九月号 いかもの食い―時に美味、時に嘔吐、下痢、発熱

―北京の休日 日中交流―文を以て友に会う

十一月号 敦煌の友を思う―ラクダと砂漠に感じる強い郷愁

十二月号 コニンチ・タウはうまかった

―グルメ時代の日本人の悲しい味自慢

一九九三(平成五)年

一月号 むくもり―海外からの年賀状あれこれ

二月号 彼はどうしているだろうか

―国際的な発掘調査の思い出

三月号 よい石鹸ならよい泡がでる

―道路をよくしたら経済が活性化するか

四月号 あなたは、わかりますか

―最近の風潮、カタカナ乱用に警告する

五月号 コペル君に学ぼう―人間分子の関係、網の目の法則

六月号 ボケ真つ盛り―別の昭一さん談議のズレた話

七月号 「牡丹芳」長安の春―万万花中の第一流の名花

八月号 大分は美術を語る風土

―絵は感応の詩、管理はいらない

九月号 幻の素描・ビゾン(野牛)

―思い出だけに残る二彩の色

十月号 再度の幻・愛妻のデッサン

―あの美しきマドンナは今いずこ

十一月号 玉葱たまねぎの皮のような日本

―フロンティア・スピリットを忘れたアメリカ人

十二月号 殿・ここがアメリカにござります

―日本に比べ物価が格安だ

一九九四(平成六)年

一月号 落髪不勝梳―韓国の友人・金元龍逝く

二月号 ハンバーガー・シヨップ

―日本の豊かさは「井の中の蛙」だ

三月号 遊びの心―文化を破壊していく現代の遊び

四月号 東洋の道徳、西洋の哲学を学ぼう

―中国古典を怠ると皆、幼児になる

五月号 コメは何故消えた―農業を潰しておいて、何を今さら

六月号 ブル連隊長、謹んで警告します

―小沢さん、もう引退したら如何どう

七月号 なんでも横文字にしたがる阿呆な国際化

―私は石頭か?

八月号 大分は光の豊かな太陽の国

―今のサツカーブームもバブル経済のようなものだ

九月号 ウメ(猫)の独り言―宦官議員かんがんが国を滅ぼす

人は空蟬うつせみのように、はかなく悲しい

―蟬せみが鳴かなくなつた森を歩く

十一月号 おかしいぞ日本

―十目の視るところ十手の指差すところ
十二月号 「はしやぎすぎ」と、その顛末
―コメ騒動から得た教訓は？

一九九五(平成七)年

一月号 はるか銀杏の街ソウル―楽しみな景福宮の完全復元
二月号 茶番狂言―第2自民党の再現に思う
三月号 ほんもの、オーセンティシティとは何か
―科学技術の奢り(ちび)を捨てよ
四月号 二つの薄葬墓(七世紀)―壬申の乱と終末式古墳
世界の文化遺産である臼杵磨崖仏
五月号 東アジア屈指の石仏を崩壊させないための努力
料理は良薬―甘い韓国の唐辛子
六月号 「子供の喧嘩に親がでる」
―今も昔も変わりのない庶民風景
八月号 汽車土瓶―陶磁器の勉強になつた駅弁の旅は昔
九月号 故郷への手紙、望郷―遠くで思い続けた変わらぬ町
十月号 松本唯一先生の思いで
―万物には神霊が宿るといふことの例としての臼杵石仏
十一月号 平安時代の光に迫りつけばわかる
―コンピュータ・グラフィックで臼杵石仏創設時の
姿を映像化
十二月号 アジアのヒトラー、あばかれた毛沢東
―法にも神にも従わない指導者

一九九六(平成八)年

一月号 北京秋天―蒼天は敦煌(とうとう)に連なりて友を思う
二月号 遙かなる敦煌・今昔―シルクロードの夜雨と砂嵐
三月号 ヒマラヤの雪が黒く見えた
―最も清々しい神の国なのに
四月号 西域の砂漠の中での旧友(中国人)との再会
―事實は小説より奇なるもの
五月号 歴史学も又、虚実皮膜の間か?―自然科学と考古学
六月号 ダムに沈むムラの歌―自然科学と考古学
七月号 法律家ビンセント・エスポジト 詩人エドモンド・
ブランドン―自然科学と考古学
八月号 佐藤義詮先生の「自由」 故佐藤敬画伯の手紙
―自然科学と考古学
九月号 学生の心を豊かにしよう 佐藤義詮先生の大学と学生
―自然科学と考古学
十月号 長鳴茂雄のメーク・ドラマ―自然科学と考古学
十一月号 大陸、朝鮮半島につながる海―自然科学と考古学
十二月号 文化遺産の崩壊と保護―自然科学と考古学

一九九七(平成九)年

一月号 自然科学と考古学 中国の近代化と日本のゴミ売り
二月号 自然科学と考古学 北京の胡同(フイトン)、上海の弄堂(ロンタウ)
三月号 自然科学と考古学 一日一汗
四月号 寝室と廁
五月号 轢き殺して行け

- 六月号 メンソレタームの効能書き・その顛末
- 七月号 長崎ぶらり・じゃがたら文の碑
- 八月号 盲僧琵琶の音が消えた国東
- 九月号 誠実を取り戻そう
- 十月号 どちらの子供が幸せか 与一時代（少年の思い出）
- 十一月号 宇佐は畿内
- 十二月号 平六カクロツポ

一九九八（平成十）年

- 一月号 焼き畑ムラのマンボ踊り、いつまでも
- 二月号 岡潔先生「治宇二郎の好きな歌」
- 三月号 上田原の湯立て神楽
- 四月号 この落書き誰かに似ている
- 五月号 （休載）
- 六月号 ここにも実像と虚像がある
- 七月号 鳥獣保護法の見直しとイノシシのこと
- 八月号 W杯・クロアチア対戦をみる
- 九月号 国旗・国歌、そして「身土不二」
- 十月号 国東のホウヤク祭り
- 十一月号 縄文文化の原点ドングリ山
- 十二月号 今昔 別府市銀座通り

一九九九（平成十一）年

- 一月号 今昔 河豚料理
- 二月号 バジヤマ、チラチラ

- 三月号 （休載）
- 四月号 冥土見聞
- 五月号 鹿鳴越のドングリ山と水神
- 六月号 実像と虚像
- 七月号 「志学」と「従心」
- 八月号 （休載）
- 九月号 トラキチ瓦礫先生
- 十月号 縄文中期土器の不思議
- 十一月号 土偶は「へび女」
- 十二月号 女神の死と再生の儀式

二〇〇〇（平成十二）年

- 一月号 森と水は命の精霊
- 二月号 便利は不便
- 三月号 便利は不便
- 四月号 安全でない道路はいらない
- 五月号 臭い物には蓋
- 六月号 唐招提寺（遣伝子・畏怖）
- 七月号 衝撃
- 八月号 壺中の仙
- 九月号 歴史遺産保護の大切さと破壊の空しさ
- 十月号 日本の歴史遺産根こそぎ
- 十一月号 考古学断想
- 十二月号 強い女とダメ男

二〇〇一(平成十三)年

- 一月号 散歩道様変わり
- 二月号 霜葉は二月の花より美しい
- 三月号 寒波来襲
- 四月号 あそび

一九六五(昭和四十)年

- 一月十三日 富貴寺の阿弥陀座像
- 五月三十一日 東洋と西洋の歌
- 七月十日 ドンソンの遺跡
- 八月三十一日 発掘ボケ

「大分合同新聞」夕刊「窓」「灯」

大分合同新聞夕刊の随想は一九六二(昭和三七)年十月まで「窓」のタイトルで掲載した。十一月から一九六三年十二月までは休載。一九六四年一月に「灯」と改題して再開した。

「窓」

一九六二(昭和三七)年

- 五月十五日 み仏の治療
- 六月二十日 夢
- 七月二十三日 空とぶ人間
- 九月四日 神と芸術

一九六七(昭和四二)年

- 一月二十五日 ひとみ
- 四月三十日 じゆ(呪)術と医学
- 七月二十七日 国東の風物
- 十月二十四日 ネズミのシツポを食った男
- 十一月二十三日 M・プリジオンと私
- 十二月二十四日 ハゲ

「灯」

一九六四(昭和三九)年

- 三月三日 論争
- 五月三十日 おもいで
- 十月十五日 ドシエ

一九六八(昭和四三)年

- 六月二十一日 「籠の鳥」
- 七月九日 初老の坂登り

- 三月二十日 続ハゲ
- 五月二十六日 「長」いもの
- 八月七日 ニキビ取り美顔水
- 八月二十一日 続ニキビ取り美顔水
- 九月八日 石
- 十二月六日 軽四輪のラーメン屋

一九六九（昭和四四）年

- 二月二十四日 文化への郷愁
三月十四日 七草
四月二十六日 熊野の思い出
六月二十五日 ヒスイ
十二月十一日 拓本

一九七〇（昭和四五）年

- 二月七日 「ヘソ」を取られた
三月十一日 「ボンジュール」の歌
四月十三日 十年一昔
五月十四日 まさゆめ
八月二十五日 木簡
十月三日 うま
十一月九日 なつかしい戦後
十二月二十六日 文化財の認識と理解

一九七一年（昭和四六）年

- 二月九日 七一年「中国の年」に思う
四月二十二日 郷愁
五月十三日 「籠の鳥」再び
六月十二日 金達寿さん
七月二十三日 ジャポニカ
八月二十八日 「キヌタ青磁」ふたたび
十月二十五日 日本の海

十二月一日 宇佐の野仏

一九七二（昭和四七）年

- 二月五日 完全な人類―そして政治家への提言―
四月四日 帰化の技術者 高松塚古墳の壁画
七月十日 ねんどのビーナス
八月二十二日 いも
十月五日 金剛宝戒寺の周辺
十二月十一日 イッチン、カッチン

一九七三（昭和四八）年

- 二月二日 えごら
四月二十八日 サヨナラばかりはごめんだ
七月十九日 歴史はドラマだ
八月二十日 文化財の保護と行政
十月六日 「エノハ」のイシガチ

一九七四（昭和四九）年

- 一月三十日 宇佐市石原貝塚
三月二十八日 「別府湾の砂州の出現」―日本列島隆起―
五月八日 シカの埋葬
八月十日 勇者の墓
九月九日 歴史の終わりがきた
十一月二十九日 三重警察署

一九七五(昭和五十)年

- 一月十日 一九七五年、人と獣
三月十五日 湖底の奈良時代
五月十六日 「ハウチヨウ」の事
六月十四日 「位至三公」 双竜鏡
八月十四日 孟蘭盆会(うらぼんえ)
九月十五日 「沿道修景美化条例」
十月十六日 塑像―宇佐天福寺と韓国鳥合寺―

一九七六(昭和五二)年

- 八月十三日 すばらしい若者たち
十月十一日 縄文時代の農業
十一月十一日 ホッベタがぬけた
十二月八日 続ホッベタが落ちた話

一九七七(昭和五三)年

- 一月十四日 トチ笛
三月十一日 顔
八月一日 粉洞穴の調査《第四次》
十月二十一日 かゆと雑炊

一九七八(昭和五三)年

- 三月二十四日 道楽
六月十四日 拝啓エクスプレス由布二号殿

一九八一(昭和五六)年

- 七月二十三日 冬の風鈴
九月二十九日 北京の賞月

一九八二(昭和五七)年

- 二月十五日 夢
四月十七日 ハワイの「造成」と一品運動
六月十六日 「まんじゅう12個」と最高裁
七月二十一日 農業は全人類史
九月二十二日 「孤高」の美
十一月三十日 日記帳から「世相」

一九八三(昭和五八)年

- 二月二十五日 君に一言―梅原末治先生の死―
五月二十七日 「幻の夏王朝」

一九八九(平成元)年

- 十月四日 シカ笛
十一月二十二日 ドングリ山が消える

一九九〇(平成二)年

- 三月二十七日 理想の禿はげ
八月六日 対馬の「檜ぼの」と照葉樹林
八月三十一日 ミシエル・ブリジオン

十月二十七日 ハコ・フグ、カットンポ

一九九一（平成三）年

一月二十六日 ナボレオン・ボナパルトの田虫

三月二十二日 チュ・ハイのこと

五月十三日 末永雅雄先生の死

七月五日 はげの似顔

十月二十五日 レイ族の娘小屋

一九九二（平成四）年

三月三十日 こんなはずではなかった

五月十三日 県民に見せたい文化財

八月二十四日 以文会友

十月二十二日 蠟燭を持つ女

一九九三（平成五）年

二月二日 銭は後世のために

四月二十一日 酸性雨と文化財

六月五日 小さな煙突掃除人

九月九日 アメリカの美術館

一九九四（平成六）年

一月十一日 神も仏もない時代

三月二十二日 「老婦と子供」 故郷の歌

一九九六（平成八）年

四月六日 モデル二テ

七月二十六日 家鶏を厭い野雉を愛す

十一月一日 「遥かなる長安」に思う

一九九七（平成九）年

七月二十五日 東京で見た竹田展

一九九八（平成十）年

七月三日 タヌ公漫步

七月三十日 身土不二

十一月十一日 まじめ失格

一九九九年（平成十二）年

三月二十五日 ああ「荒城の月」

十一月五日 秋の上野の森

※一九七九（昭和五十四）年、一九八〇（昭和五十五）年、一九八四（昭和五十九）年、一九八八（昭和六十三）年、一九九五（平成七）年、二〇〇〇（平成十二）年、二〇〇一（平成十三）年は、執筆していない。

〔付記〕

賀川光夫先生のエッセイ題目の収集については、平野統之氏（大分合同新聞）の協力を得た。